

登場人物

※基本的には女の一人芝居である。

母親以外の役は、役者を出しても良いし出さなくても良い。

(母親、キッチンで料理をしている。

父親、その隣で食器を持って立っている。

息子は座っている。

母親、食器を受け取ってスープを注ぐ。

父親、息子のもとへ行き、熱いスープののったスプーンを息子の口に運ぶ。

母親、それに気づきスプーンをひったくる。父親、驚いてコップを落としてしまう。

コップ、割れて中の液体がこぼれる。)

間。

女 ・冷ましてあげるのよ……!どうして冷ましてあげないの?

わかるでしょう、そんなこと、普通。常識よ。

あなたほんとにこの子の父親なの。

こんな熱いのあたしだってヤケドするわ、アンタわかるでしょ。

なに、それともわざとやったっていうの?そうなの?そうなのねこのウスノロ!

やっぱりね。あんたはいつかそうやって本性を見せるものだと思ってたのよ。

いい気味。

私用心してたの。あんたは何かしでかすと思ってたから。正解。大正解だわよ。

この子が産まれてからね、あんたには危ないものを持たせちゃいけないって思ってたの。包丁とかね。未然の防止が大切なのよ。

だからあなた、その証拠に一回もキッチンに入ったことないでしょ？  
ここにはね、包丁以外にもいっぱい凶器となりえるものがあるんだから。  
そんなものあんたに持たせてもしたら、たまったもんじゃありませんからね。  
掃除や洗濯も同じよ、洗剤で何されるか分からないし、  
あれは毒だから・それからホウキの柄だってあれ固いんだからね、殴ったらひとたまりもない・・・  
もし洗濯機のフタを開けっ放しにしておいて、息子が脚をすべらせたなら・ああ置きっぱなしの、アイロ  
ンで火傷してしまうかも・・・。うちの中は凶器だらけ・・・

一番安全で身を守れるはずの家の中が！

そんな中であたしはあらゆるものから守ってきたこの子を！

なのに・なのに、なに、また私の仕事を増やすの？ そうなのね？

でくのぼう。あんたのことよ。なあんにもできない。

スープを飲ませるくらいは出来ると思ってたのに、あんたを信じすぎたわ。

いつだってそう。私いつもあなたに裏切られる。もう期待なんてしない。

あたしが全部やるもの。やればいいんですよ。

あなたの役目？ 家庭に十分なお金を入れることだわ。それすら出来なかつたらあなた父親失格ね。

(息子に気づいて) あああっ、ほら、ごめんなさいね、お腹すいた？

どこか痛いところはない？ スープ・スープ、そうねスープよね！

(夫に) スープ・冷めたみたいよ、私があんたと話してる間に！ 何ぼーっとしてるの、早くして！

(息子に) えっ？ 冷たいのは嫌？ でもね、熱いとやけどしちゃうでしょう、

ああそう、そうよね、ごめんねママ馬鹿で・・・

(夫に) あなた！ あなたさっさと新しいスープよそってきてちょうだい！

鍋の中にまだあるから！ 一回温め直すのよちゃんど。

スプーンももちろん新しいの、食器棚から！ 引出し！ 右から二番目！

(息子に) 危ない！ ねえお願いだからおとなしく座ってて、さっきあの人割っちゃったんだから。  
すぐ片づけるからね

だめよ、動かないで、ここにいて、お願いだから・・・

裸足で歩いちゃダメ！ スリッパ履いて！

病院行くことになるから！ 痛いわよ、痛いのやでしょ？ さ、ほら、

分かつたら大人しく座ってて。

(母親、床に這いつくばり顔を床すれすれまで近づけながら割れた食器のかけらを拾い始める。)

見つからない、見つからない・・・痛ッ・・・(膝小僧をさすりつつも、探し続ける)

・・・とても取りきれない、ぜんぶなんて・・・  
拾っても拾っても無くならない、終わらない・・・終わりが見えない・・・  
見えない、見えない・・・

(父親、新しいスプンを皿によそって新しいスプーンと共に持つてくる。)

・・・置いて、そこに。どつか行つて。私が飲ませるから。早く、行つて。  
なあに？・・・掃除機を持つてこようか？何考えてるのよアンタつて人は！  
そりゃあ便利になつたわ。便利でしょうよ、そりゃあ。昔に比べたらね。  
掃除は掃除機で、洗濯機はボタン一つ、ご飯は炊飯器が炊いてくれて・・・  
それで楽だと思つてるの？楽になつたと・・・？

結局ね、家事は無くならないの。機械なんて使い続ければいつか壊れるものよ。  
どこか調子が悪くなる。そしたらそれを直す仕事も必要じゃない。

誰かがやらなきゃいけない仕事が増える、ただそれだけ・・・

お義母さんのお世話だつてそう！

お義母さんのお世話や子供のお世話は、機械はやつてくれないわよ？

私が、この手でやつてるの・・・

誰かがやらなきゃいけない仕事の尻拭い・・・

・・・私は完全にくつついちゃつてるのよこの家と。

アンタがよく道端に吐き捨てるガムみたいに、みじめつたらしく、へばりついてんの。べつとりと。  
踏まれるたんびにもつとくつついて、離れられなくなる・・・

そりゃあ、買い物には出かけるわ。息抜きも必要ですもの。

生活に必要なものは買いそろえておかないと・・・

ああ、結局家のための買い物！

おまけに息子から目が離せない・・・

一緒に店に行けばうるさいし、かといって家に置いて行ったら気が気でない。

今頃家で何してるのか、考えれば考えるほど不安になるの。

一刻も早くレジに向かつて、さっさと帰らなきゃと思うのよ！

(父親、そつと息子の前にスプンを置く。)

・・・ベビー・シッターなんて、どうして信用できるのかしら・・・

確かに人を雇つたらどんなにか楽になるだろうって思ったこともあるわ。

でも駄目。だって、私きつとそのベビー・シッターが息子に何かしやしないか心配になると

思うのよ今度は。そっちの方がきつと今より苦しいわ。

(唐突に笑い出す)……ふふふつ、でも知ってる、ホントは何かしやしないか望んでること……!  
私は息子がどんな目に遭ってるか想像しながら、同時に、そんな息子を見たときどんな顔したら  
母親らしいかしら?心配そうに見えるかしら?って表情を変えて見せてる。  
すぐに罵倒するべきか、気付かないふりして、ちよつぷり傷ついているそぶりを見せるか……

あーあ……いやになる、いやになる……

(夫に)ねえ、聞いてくださる?

恥ずかしいのは親なんですよ、いつだって。

私だけが悪いんじゃないのにねえ。

ほんの少し、お箸の持ち方が違うからって何故かしら、よってたかたて。

私がちやんと教えなかったのが悪い、ですって?

毎日口すっぱくして教えてたつていうのに、

あれが正しい教育でないなら、いったい何が正しい教育なのよ?

近所のご婦人がた……うちの中のことは手際よく片づけて、着飾って外に遊びに行く。  
娘みたいな恰好をして!心なしか声も若くなつて!

あの人たちは器用で、私は不器用なのかしら?

いいえ!私ほね、ああいう人たちみたいにはなりたくないの、  
器用に声も顔も使い分けて、若返った気になって。

それでもつて家から逃避行出来た気になつてる。

あーあ。可哀そう。馬鹿みたい。どうして分からないのかしら、家からは逃れられないつてこと!  
ちつとも離れてなんて、出ていけてなんてないつてこと!

……私は善き母でありたいの。善き母であるにはそれ以外ではいけない。  
いつでも母でいなくちや、善いとは言えないでしょう?

だいたいね、子供を産んだ時点でもうずつとずーつと母親じゃないの。

\*\*\*

(母親、テーブルの上に乗った花瓶の花を掴み、花びらを一枚一枚ちぎっていく。)

(テーブルの上にある花瓶の花を一枚ずつちぎりながら)

愛してる、愛してない、愛してる、愛してない、愛してない……愛して……

ねえ、お金払えばそれで済むと思ってるの?

この子は私たち2人が愛し合つて出来たんだから2人で愛さなきゃいけないのよ  
分かる?

ああ何で作ってしまったんだろう私はあの子を!

……お義母さんのせいね、そうね、だつてお義母さんがアンタを作っちゃったから、

この子が出来たのよ。私たちが何度も何度もね、愛し合って、でもあんなの戯れ、そう戯れでしょ、習慣みたいなものよね、そうだったでしょう、ねえ。

だからあの日も真剣に子供作ろうなんて・・・出来るなんて考えてなかったのよね。

習慣だから。習慣でいつもと同じことするってことですよ。

・・・ああ、やめて。そりゃ嬉しかった、この子がお腹に来たとき。

でも違う、そんなことじゃない。あときはいくら嬉しかったからってね、

それがいつまでも続かないのよ。続きやしないの。

アンタが私に興味を失くしたのと似てるわきつと。

私、いつも頑張っていたの。でもそれじゃ全然足りないって、

私がしていることなんか当たり前のことだね、褒めてもらえないのよちつとも。

だってそれが私の役割で、私に与えられた仕事なのよ。

そうなんでしょう？ 私に主婦という仕事を与えてくれた人！

(息子に向かって怒鳴るように)・・・なあに、そんな顔して。さつきと飲みなさいよ、

冷めちゃうでしょ。そしたらキリがないでしょ、またよそつて、冷めて、また

よそつて・・無くなって、片づけて、そしてまた作って・・

分かる？ ウンザリだわ。私はいつこ飯以外のことを考えりゃいいのよ？

片付けたら作るの。食べてる間も休まらないの。だって食べたら片づけなきゃならないからね！

片づけなきゃ作れないからねえ！

(子供が泣き出す)

ああもう！ どうしてなのあなたは！

やめなさいよ、泣くの！ 頭がガンガンする・・・

(ヒステリックに) 静かにしなさいって言ってるでしょう!!!

(夫に)・・・なに？ 疲れてるんだな・・・？ あなた、そんな一言で終わらせないでくれますか？

だいたい、疲れてるからなんだっていうんですか？

家にいないから分らないのよ、こんなこと一つとつても。

迷惑なの、子供の泣き声が、うるさいって！ 迷惑になるの、ご近所さんに、

陰でひそひそ文句言われるのは私よ!!! この、私なの・・・!

ああいいわねえ家にいない人は気楽で！ 何の責任もなくて！

ねえ私は家政婦なの？ もし家政婦なら誰に雇われているの？

この家の家主であるアナタかしら、それともまだご健在のお義母さん？

違うわね、

みんな全部ひつくるめたこの、私の、家族に雇われてるんだわきつと!!!

そうでしょ？ そうに違いないわ、それしかないわ。

・・・だとしたらボランティアよね。お金ももらえないんだもの。

そりゃごこはオフィスじゃないし、工場でもない。家庭だわ。

だからなに？無償の愛が家庭を支えるの？

続